

12月の星空まっふ

【12月中旬、午後8時頃に見える星空】

早いのが、カレンダーもあと一枚じゃ。ほし坊とホミリーは、この一年いろいろ星空を楽しめたかな？一年最後の12月、いよいよ冬の星空が広がって来ておるぞ。さて、冬の星たちは、どんな姿を見せてくれるかな？

ハニー！ホミリーから質問です。星空にはどうして明るくて大きい星や消えそうな暗い星があるの？

冬の星空で答を

探してみよう!!

星たちは、夜空という“天井”に張り付いているように見えるね。でもそれは違う。身近な月で約38万km、太陽は約1億5千万kmも離れている。これでもすごく遠いのに、一体星たちはどのくらい遠いんだろう？冬の大三角の星を例にして見てみよう。オリオン座の「ベテルギウス」は約640光年、おいぬ座の「シリウス」は約9光年、こいぬ座の「プロキオン」は約11光年という距離のところにある。

「光年(こうねん)」っていうのは、光の速さ(秒速30万km)で1年かかる距離を表す。kmで表すと一光年は、約9兆4,600億kmという途方もない数字になる。こんな単位を使わないとならないほど遠いってことだね。そして、同じ明るさの星であれば、地球に近いほど明るく、遠く離れたら暗くなる。また星それぞれ明るさもみんな違うので、見かけ上、明かったり暗かったりして見えているんだ。そんな星たちが、夜空一杯に広がって、キラキラと輝いているんだね。

2022.12
星筈(ほしじい)

夜空を飾るふたご座流星群!

ふたご座流星群は、1月のしぶんぎ座流星群、8月のペルセウス座流星群とともに3大流星群の1つ。今年の極大時間は、14日22時頃と予想されており、19時から22時までは月明かりがなく、絶好の観察日和となる。ふたご座流星群は、明るくゆったりと流れるのが特徴、願いごとがしやすいかも…。また、最近のふたご座流星群は、1時間あたり70個程度の出現が見られるとの観測もあり、期待が高まるところだ。なお、22時以降は、下弦の月が昇ってくるので、月明かりが邪魔になる。ゆめよう工夫して観察しよう。観測対策も忘れずに(出現期間は12月5日～12月19日頃。)

年末の「とっとおき」!

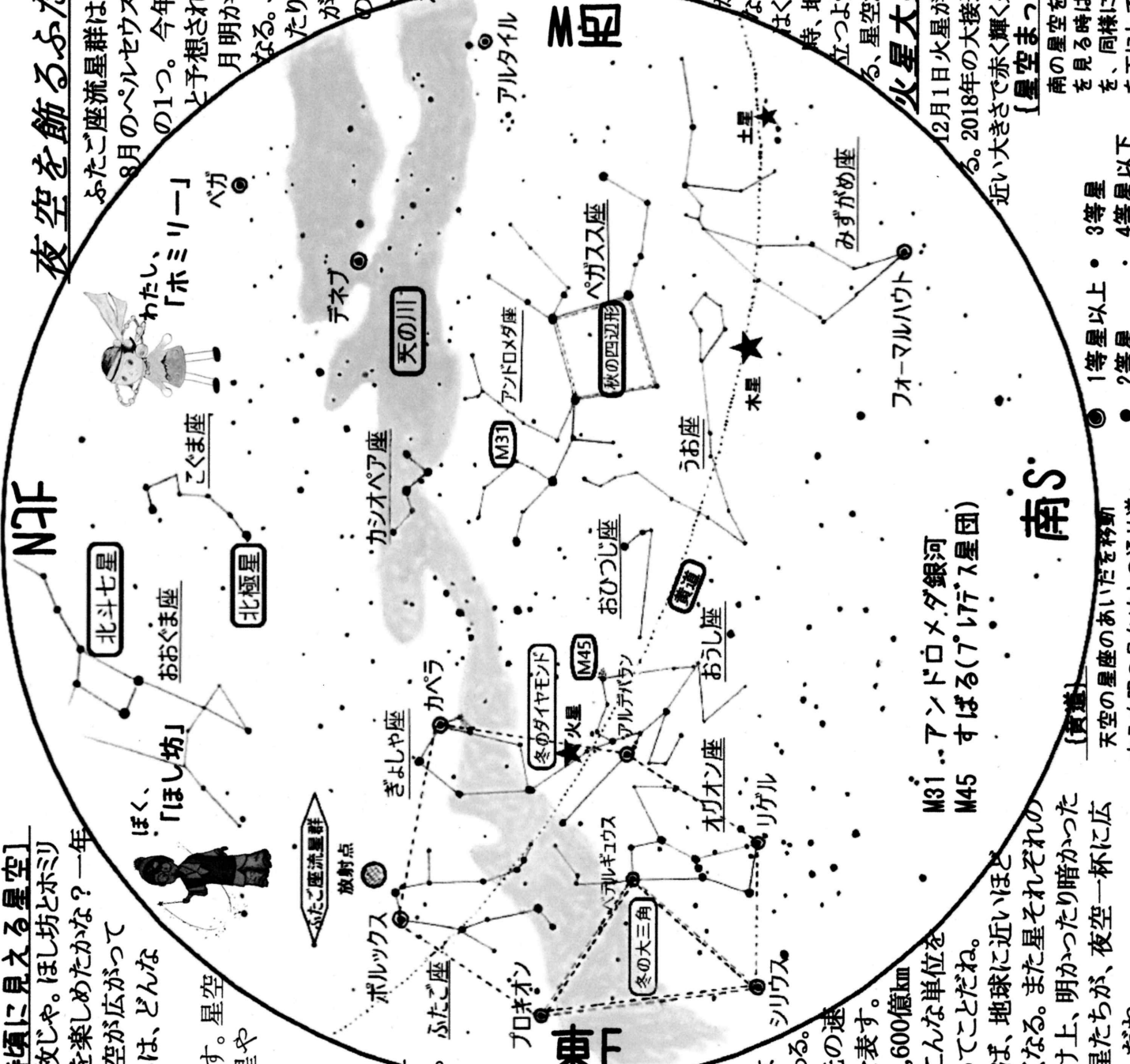
夏の星座「はくちよう座」を思い浮かべてみよう。白鳥の胴体と羽をつなぐ星並びは、正に十字架。そのはくちよう座が西の空に沈もうとする時、地平線の大地に大きな十字架が立つように見える。サンタの季節に現れる、星空からのプレゼントじゃな!

火星大接近の巻!

12月1日火星が2年2か月ぶりに地球に最接近する。2018年の大接近ほどではないものの、中接近に近い大きさで赤く輝く火星の姿、しばし観察しよう!

【星空まっふの見方】

南の星空を見上げる時は「南」を下に、北を見る時はまっふをさかさまにして「北」を、同様に東の空は「東」、西の空は「西」を下にして見上げてね!



- 1等星以上
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下

南S

北N

M31 ... アンドロメダ銀河
M45 ... すばる(プリアー星団)

【黄道】

天空の星座のあいだを移動する太陽の見かけ上の通り道